

言語文化
研究

15巻1号

2003年6月

June 2003 / vol.15 no.1

立命館大学国際言語文化研究所

International Institute of Language and Culture Studies, Ritsumeikan University

特集

公開シンポジウム プロジェクトA
労働のジェンダー化 パート2

買春と労働概念

4 「労働である」ということに何がかけられているのか
江原由美子13 セックスワークの脱神話化？
—リジー・ボードンの映画『ワーキング・ガールズ』を中心に—
池内靖子21 性の商品化と家族の「聖性」
小倉利丸

シンポジウム 性労働を考える

29 コメント
田崎英明35 コメント
山家悠平38 コメント
金 友子40 コメント
水島 希

52 ディスカッション

<エンパシー>シンポジウムを振り返る

57 <エンパシー>シンポジウムを振り返る
はじめに—コラボレーション／コンフリクト—
池内靖子

59 プログラム・趣旨

63 基調講演 「ジェニンの5時間—4月の空の下、ジェニンを歩いた—」
岡 真理69 エンパシーのはじまり
嶋田美子71 自作を語る
嶋田美子75 『在日』の家族写真展がバンクーバーで！
皇甫康子79 ゆだねること
池内靖子81 Against 'Erasure' in the Midst of 'Unseeing':
Thoughts on the Empathy Project
Rebecca JENNISON87 「非在の存在」を想起する大切さ—エンパシー展シンポジウムへのコメント—
北原 恵

研究会発表（アイデンティティ研究会）

91 視覚イデオロギーとフェティッシュとしてのナショナリズム：
—情報資本主義下での国民国家と批判的知識のゆくえ—
飯田由美子

個別論文

105 ことばをめぐる言説—日本語ブームと英語第2公用語化論の奇妙な関係—
児玉徳美123 『失われた時を求めて』のシャルダンとホイッスラー
鈴木祥史135 遼金史札記
愛新覺羅 烏拉熙春153 『日の名残』論—空白の5日目—
野口忠昭171 Security and Ethical Concerns on the Internet
Hary GUNARTO177 多元的自己組織化モデルから見たコミュニティ形成
—シカゴ市のアフリカ系アメリカ人コミュニティの例から—
堀田秀吾193 Derivational vs. Representational: Glot International誌上でのOT論争
三宅正隆